

## 第2章 平成19年度の実施状況

### 子どもと本をつなぐ地域交流会

#### 中部地区交流会

平成19年10月に中部地区において昨年に引き続き2回目の地域交流会を行いました。参加人数は昨年の51名から56名となり、学校での読み聞かせグループの参加が大幅に増加しました。18年度に実施したアンケートの中では、回収された30のうち、「いろいろな活動のお話がきけてよかった」とする回答が15、一方で6人の方から「話し合う時間が足りない」とのご意見がありました。19年度は共通のテーマ、「本が届いていない子どもたちをイメージしてみる」にそって討議していただいたため、アンケートにも47枚中8人の方が「テーマ設定をしてよかった」と意見を寄せておられる一方で、「時間が足りない」とのコメントをされている方はなく、一つのテーマに絞って話すことで、それぞれの課題に向き合う機会となったと思われま



#### 南部地区交流会

南部地区の地域交流会においては8団体の活動報告を行ないました。自己紹介の後、グループごとの討議で、外国人の親子のコミュニケーションに関する問題から商店街の空き店舗を利用した読み聞かせの提案まで、様々な意見がだされました。初めての開催ということでアンケートにも「いろいろな方とお話できてよかった」など、交流についての意見が多くありました。



## 北東部地区交流会

北東部での交流会は読み聞かせボランティアを中心として多くの参加がありました。また民生・児童委員や書店主など、今までにない子どもや本に関わる方の交流を広める機会となりました。当日は発表者として、学校司書や障害児通園施設の保育士、帰国児童の保護者などによる発表の後、本やおはなしが十分届いていない子どものイメージについて話し合っていました。図書館や文庫に来ない、出て来ることができない親子への配慮、ゲームの影響、大人への働きかけの重要性など、様々な意見がだされました。今後の交流会のプログラムとして、アンケート（全44通）であげられたものは、活動の事例発表（28通）、グループ討議（22通）などがありました。



## 平成19年度まとめ

平成19年度の地域交流会は活動発表とともに、「本やおはなしが十分届いていない子どものイメージ」ということについてグループごとに話し合っていました。アンケートからもテーマを絞ったので話しやすいというご意見が多く、平成20年度についてはフリートークよりもテーマ設定を行なった上で討議を行い、今後は課題の共有、解決に向けていくことが必要である考えられます。

## 平成19年度子どもと本をつなぐ地域交流会

	中部	南部	北東部
日時	平成19年(2007年)10月5日	平成19年(2007年)11月21日	平成20年(2008年)1月22日
参加人数(うち運営に関わったWGメンバー)	56(11)	30(7)	65(9)
参加者のおもな構成	ボランティアグループ18、学校での読み聞かせボランティア17、子ども文庫6など	ボランティアグループ8、学校での読み聞かせボランティア3、子ども文庫、学校司書、保育士(地域子育て支援センター)、私立幼稚園など	学校での読み聞かせボランティア18、ボランティアグループ18、子ども文庫6、学校司書、民生児童委員、私立幼稚園、書店など
当日の内容	自己紹介 活動をあらわすシート作り ポスターセッション 団体一覧作成	団体活動紹介:保健師、保育士、子育て支援課職員(放課後こどもクラブ担当)、おはなしボランティア、中学校学校司書、「おやこでにほんご」のボランティア、しょうないREKグループ討議 団体一覧作成	団体活動紹介:保健師、学校でのよみきかせボランティア、小学校学校司書、知的障害児通園施設保育士、帰国児童保護者会 グループ討議 団体一覧作成
討議のテーマ	絵本やおはなしが届いていない子どもたちをイメージしてみる		
当日のアンケートより	他の活動グループの様子や課題がわかって、より近しく感じました。	参加者はそれぞれの思いをもっているが、なかなか横のつながり、公の支援がバラバラだと感じる。壁をとりはらって関わることはできないものか	今日の交流会は本のお話に限らず、色々な子育ての現状についてのお話、活動を知ることができて有意義だった。
	自分の活動を見直すきっかけになった。	つなげていくには一度きりでない、継続的な交流会(情報交換会)をのぞむ。	本にかかわる大人の理解が大切だとつくづく思います。どの年齢の健診でも本を読むコーナーや読み聞かせがあればいいですね。
	いろいろな意見がでて、すごいと思いましたが、次は何か実践できることを決められればと思います。	このような交流会には初めての参加で、とても良い経験ができた。継続していけば煮詰まっていくのではないかと思う。	いろいろな方の活動、思いを多く聞くことができ、とてもよかったです。話し合いの時間がもう少しあれば、あと一歩進んだ話ができただのではないかと思います。
	出された意見や課題を実現につなげられるような提言や動きをやってほしい。	横のつながりが大切	自分たちの活動を見直したい。
	課題に向かって何かしていきたい。	地域と共に育つ活動、及び学校を目指して、横のつながりを考えると、とても大切な取り組みだと思った。	視野が広がったような気持ちになりました。

WG: 子ども読書活動推進連絡協議会ワーキンググループ